

# 再生

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第0068号

天性資質に恵まれた者は、二割五分前後を割いて

他に奉仕しべし。これは本来東洋の伝統思想たる

「恩」の思想に基づくものである。

森信三先生一語千鈞より

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



2022. 4月号

令和四年

実践人福岡仁風読書会

# 現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

## 十五 孝はついに自己超克の一路

### 「孝」の身証体感

同時に又かりにこのように「時代の悲劇」という見方を別としても、「孝」の倫理というものは、その人間関係が親というような日常最も近く相接している間柄ゆえ、これは体得実現は必ずしも容易なこととは云えないわけであります。そして現代の状況は、このことを深刻に示しているといえるわけですが、しかも真に人類史的な大観の立場にたてば、「個」の独立を説くヨコの倫理としてのヒューマニズムと、根本的には必ずしも矛盾するとは思われないのであります。このように「孝」の倫理は内に最も深奥ないのちの真理を宿しつつ、しかもその現実的实现は、現在では必ずしも容易ではないともいえます。だがその故にわれわれ人間は、この「孝」の倫理を否定してもよいかというに、わたくしとしては断じてそうは考えられないのであります。

思えば古来多くの人が「風樹の歎」といつて来たように、「樹静かならんと欲すれど風止まず、子養わんと欲すれど親まさず」といわれる歎きは、当然でありまして、これは古今東西を通じて人間至深の歎きではないでしょうか。即ちわれわれ凡人の大方は、親の生きている間はそれに甘えて、親に尽すべきをとかく怠ってきたのが、ひと度親を喪い、再び相見えることが出来なくなるに及んで、初めて子としてのわが身の到らなかりしことを痛恨懺悔するのをいうのであります。

即ちわたくしどもの多くは、親を喪うことによって初めて親子の生命の一如一貫的な真理性に目覚めて、身も世もあらぬ悲歎に暮れるわけですが、かくあればこそ、「孝」の哲理のいかに深奥なるかを、改めて身証体感せしめられるのであります。

## 実践人福岡仁風読書会 第63回 3月5日(土)

場所：福岡市博多区大井2丁目 大井中央公園にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。



「ぐりいし」は多分方言であって、大言海には、「ぐりいし」として次のように記されている。

「塊石(いしくれ)ノ転カ。沙利モ、さざれの転ナルベシ。地形ニ用ルル沙利ニ、割栗石ト云フアリ。暗礁ヲ。いくりト云フモ石塊ナリ。円クシテ、小サキ石。イシクレ。イシコロ。玄関前ノ広場ナドニ、敷キ並ブルモノ。」

今は建築工事の基礎に打ち込んで、その上に又、セメンの中に擦りこんでコンクリの土台をつくる。小さな木造家屋から巨大なビルに至るまで、なくてはならないならぬ小石のことである。一旦建築が出来上ると、永久に人の目にもつかない。はかない存在ではあっても、角のとれた円満な愛情と、ぐちひとつ云わぬ固い意志とで、世の中の進歩を支えつづけているので居るのである。自分の教壇生活をふりかえって、これと云ってお役に立つ仕事も出さなかつたし、取るに足らぬ存在ではあっても、せめて、「ぐりいし」の一つにもさとす譬えられることができるならば、教師としての喜びがあったというものである。漢字をあてて、愚利意志と書けば、利に愚かな意志の先生となるのもおもしろい。自ら「ぐりいし先生」と名づけた所以である。

教壇に登っている間は、教えることに無我夢中であつた。自分の勉強さえ教えるための勉強と思つていた。

今、教壇を降りて、静かに越し方行く末と考へてみると、それは全く逆であつて、教職にあつたればこそ、この間にさまざまなことを学び、今日の自分があつたのだということが、はっきりとわかつて来る。誰しも人は、仕事によって磨かれることに例外はないだろうが、教職という立場ほど、純粹に自己を浄め深める職業は、そうざらにあるまいと思われる。

幼少の頃、学校一の病弱な私が、今は無病息災で人も羨むほどの健康に恵まれているし、無口であつた私が、人様の前で曲りなりに

もお話ができるようになったのも、全く教職にあつたおかげと言わねばならない。みんな仕事がそうさせたのである。

私は教え子との生活の中で、いろいろのことを学び私自身も育つてきたと思う。だから教え子というコトバが、私にはどうしてもぴったりと来ないで同行衆とでも云えば、いくらかその気持ちに近いように考へる。同行衆といへば、又、教壇生活の中で、上司、先輩、同僚、父母等からも、幾多の数知れない恩恵を受けているので、それをぬきにしては、今日の私はあり得ない。

私はこうした宏大無辺な恩恵に、いささかでも報いるため、日本教育界の正しい歩みを念願し、おこがましく、又、恥ずかしいことだらけではあるが、一人の田園教師の経験談をまとめてみたのである。

この書物が世に出るまでには、多くの方々の御厚意をいただいているが、わけても、河辺先生からの最初からの御激励が大きな機縁となり、その後も引き続き御指導御鞭撻を重ねていただき、教育委員として御活躍の中の御多忙を割いて、詳細な御検閲をいただいて最後には、身に余る御序文まで賜つて、私の感激は最高潮に達した。扉第一の写真「観音様」は木彫りの大家富永朝堂先生に彫つていただいたものをお許しを得て掲げることにした。その他挿入の写真は、中牟田校の竹森先生や、江川、立石で一しよだった齋田先生と諫山先生にお願いしたところ、お多忙の中にたくさん撮つてもらつたものの中から大部分採り、あとは手持ちのものを使った。

中牟田校の先生方からは、わざわざ手記を書いて貰つたり、資料集めて下さつたり、代わる代わる激励や慰問をいただいた。こうして、有縁無縁の方々の御厚意で、このささやかな一冊が、世に出ることになったことに無限の喜びを感じ、最大の感謝を捧げるものである。

## 第45回 福岡空港ミリオン清掃 3月5日(土曜日) 6名参加



6名で福岡空港ミリオン清掃を実施致しました！

1ヶ月前と比べてだいぶ明るくなり、季節の移ろいを感じます。季節を感じられるのも掃除の醍醐味です。

いつも気になっていた箇所のゴミ拾いを皆さんで行うことが出来て、気持ちも晴れ晴れです。

いつもありがとうございます。

MEGUMI



「福岡清爽クラブ」  
LINE公式アカウントはじめました！

お掃除の様子や活動予定などを配信させていただきます！

よろしければ  
QRコードからご登録  
お願い致します。



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第339回  
**博多駅 早朝清掃**

毎月**8**日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

ハウスメイト



第340回 博多駅早朝清掃

29年目・・・

3月8日(火曜日)

58名参加



愉快的な仲間数名と穴場の穴のゴミ取りをしました。穴場とは、線路高架下の壁面です。その壁には直径7～8cmほどの排水口の穴が、いくつもほがされています(博多弁:通す)。ゴミがあるかどうかは、覗いてみないとわからない！一つでもゴミが入っていると嬉しくなりますが、その中でも空き缶を見つけた時は、テンションが上がります！なぜならば、穴にピッタリとフィットした空き缶を取り出すには高度な技を要するからです。ピッタリフィットした空き缶の飲み口の穴を、いかに Tongue で掴むか、この技に全神経を集中させます。上手くつかめた時の充実感はたまりません。おかげさまで、早朝からドーパミンが大量分泌され、快樂な1日を始めることができました♡いつもありがとうございます(^.^)♪

MARIMARI



博多駅 副駅長



第340回博多駅早朝清掃を実施致しました。  
先月に引き続き大分からお掃除仲間の方が駆けつけてくださり、58名で賑わいました！  
大分を午前3時に出発して、博多駅でお掃除されている姿には頭が下がります。  
博多駅前のゴミはもちろん、見えない溝の中まできれいになりました。  
皆様とお掃除をさせていただきありがとうございました。

HIROMITSU

# 耕作放棄地再生と清爽活動in酒殿2020.12.29~

3月12日(土曜日)



酒殿駅前のトイレ磨きをさせていただきました。  
今日は一ヶ月前と比べて明るく、気温も温かく、春の心地がしました。  
同じ場所を同じ時間に掃除をさせていただくと季節の移ろいを感じます。  
早朝から心を磨いて気持ちの良い一日のスタートです。

HIROMITSU



## 冷泉公園早朝清掃

3月19日(土曜日) 第125回(再開)



冷泉公園のトイレ掃除を7名でさせていただきました。

外のトイレなので頑固な汚れもありますが、毎月少しずつ磨いて落としていけたらと思います。

大先輩や小さなメンバーもみんな一緒に、トイレがにぎやかでした♪掃除後は、近くのご縁のある飲食店さんに、美味しい発酵玄米と温かいお味噌汁をごちそういただきました。

本当に有り難く、幸せな朝のひとときでした。

HIROMITSU





# 令和を巡る早朝清掃／戒壇院 2020.1.25～

3月26日(土曜日) 第27回



春一番の強い風と雨の中、『アメニモマケズ、カゼニモマケズ』と、向かった戒壇院♡もうすぐはーるですねえ♪(by袈裟右衛門さん)のオープニングで始まり、雨雨降れ降れも～っと降れ♪(by田原さん)、磨かれている敷石も楽しそうな表情を見せてくれます。

このような楽しい体験は、井さん&恵さんの準備と、山本さん&興善さんの見守りのおかげです。

掃除の終わる時には、御住職さまのご挨拶もあり、ありがたい限りです。

合掌。。

MARIMARI



## S建設トイレ掃除

3月12、26日(土曜日)



ご縁を頂きましたS建設さんの仮設トイレをお借りしてのお掃除を実施させていただきました。その名も「磨心隊(まごころたい)」！学校や公園のトイレとは違って、建設現場は気を付けるポイントがまた違います。段取りや準備をしっかり行うことの大切さを感じました。また、ご縁をいただきましたS建設さんの災害事故ゼロを願いながら実施させていただきました。「掃除に学ぶ会」で学ばせていただいていることを、今後も建設現場にお届けさせていただきます。  
HIROMITSU



# 生命の林と人生 六五、新しい書道教室

022-4

光然京カルデラ

「書は、日本人の心の故郷である」  
書道会の大御所 鈴木 翠軒先生

私は手本を与えてその通りに見て書くという従来の方法をとらないで、子供たちの力で作り上げていく方法をとった。自由に子供が書いたものを丁寧に観ながら、その長所美点を紹介していった。もちろん参考手本等を鑑賞させることはあったが、その通りに、意味なくまねるのではなく、そこに流れている原理を発見し、自分のものに取り入れる方法をとった。美点の賞賛賞揚は惜しみなく赤で大きな丸を幾重にもつけてやった。上手と下手とで別けるのではなく、気力の充実、個性の表現かどうかに関点をおいた。子供たちは楽しんで書いていったが、型にはまらない活々とした三並書風が出来上がり、朝倉書道会の先生方も、一見して三並だとわかり尊重された。

父は私の教え子でもあった。七夕さまの日案内を受けて、畑島下原に行ったら、他部落と違って、そこには、練習の用意がしてあった。突差ではあったが、私は最初の手ほどきを二時間ばかりもしたのであるうか。新しいやり方に、集まってきた母親たちは、こぞって感嘆され、週一回この調子で教えてもらいたいと言われる。私は土曜の帰りを利用して欠かさず教えに立ち寄った。その部落から、朝倉書道会で、最高賞や天賞、地賞、毎日新聞社揮毫でも特選、そしてさきの興膳君の上京、次には日本書道今研究所主催の大会にも特別賞二名を出し、この時も私は付き添って上京せざるを得なかった。

私はこの習字練習を折角の機会と思ひ、練習が終わって必ず母親たちと教育座談会をした。回を重ねる毎に研究は深くなり、子どもたちの成績はぐんぐんと上がり、全員優秀な勉強家となり、今まで働くばかりの部落が、全くの教育部落になってしまった。私の銀婚式には父も母も子どもたちも集まって部落中で祝ってくださいしたのは終生忘れることのできない感激であった。

そうなるも他部落も承知できない。各地からの申し入れのまま、暇のつく限り巡回指導をした。私はいつまでも三並校に居たいと思っていたが、四年後の大異動で、はからずも、母校である中牟田校に転勤を命ぜられた。

現在考えられている書道教育を一步抜けて、新しい書道教育をしたならば、日本中の子どもたちの中で幾人が救われ、世の中がどんなに明るくなるか、私は三平校の母や子どもからはっきりと教えられた。

三十年後に望みをかけた教育ぐりいし先生より  
母の手記より

六才の時の夏の自家中毒、光熱に冒され無意識のまま死線をさまようこと五日、遂に医者から見放された子どもを抱いて泣き続けた幾夜でございまして、七日目に急に「生命危機区域脱す」の医者の言葉を聞いた時の私どもの喜び、とても筆舌に尽くすことはできません。やせ細って歩くこともできなかつた子ども最後の相手をしながら、よくもあの危険から免れたものだと思議なくらいでした。

こうした長い間の病気をドモリのために、元気がない、自主性に乏しい、無口な、一人では遊びに行けない子に育ってしまったのです。こ総領息子の入学の日を迎えた私共の喜びと不安は、「毎日学校へ行けるだろうか」「ドモって笑われはしまいか」「泣きやしまいか」としばらくは仕事も手につきませんでした。

口も聞かずに、自分の成績を認められる。習字のかくれた精神力によるものではあるまいかと、秘々書道の喜びを新たにしながら、見落とされがちな陽かげの子に、神よりも仏よりも、医者よりも、暖かい手を差し伸べて、我が子と私も一家に、明るい希望に満ちた輝かしい陽の当たる世界をお授け下さった。校長先生と池田先生に心から感謝の真心を捧げて今後は力強く生き抜きたいと信じています。

昭和三十四年三月  
三並、興膳利子 ドモリと習字より

二〇二二年三月二六日

広葉の林を育てる会 興膳丈治

